

社会学部報

◇学術講演会

○社会学部では、1989年6月28日(水)午前10時50分から第五別館第2号教室で学術講演会を開催した。講師はジョンズ・ホプキンス大学教授のメルヴィン・コーン博士。氏は1928年ニューヨーク市に生まれ、コーネル大学大学院で社会学博士を修得し、社会環境研究部門所長を経て、現在の職にある。アメリカ社会学会会長、国際社会学会副会長を歴任した。

今回の講演のテーマは「仕事とパーソナリティ」。階級と職業条件が現代人の価値形成にいかなる影響を及ぼしているかについての博士の研究成果の報告があり、200名近い教職員・学生が熱心に講演を聞いた。なお、通訳は本学大学院研究員の齋藤友里子氏がたった。

◇社会学部講演会

- 1989年5月24日 講演者 沙蓮香教授(中国人民大学社会研究所・一橋大学客員教授)
演題 「中国人の国民性」 通訳 謝小彬氏(大学院社会学研究科博士課程後期課程在学学生)
- 1989年5月25日 講演者 マリオン・ボーゴ教授(トロント大学大学院・社会福祉学部)
演題 「対人援助のためのコミュニケーション・スキルについて」 通訳 荒川義子本学部教授

◇学部研究会

- 1989年3月13日(特別例会) 発表者 ジェイムス・D・ハローラン教授(国際マス・コミュニケーション研究所長)
「The Social Implications of Innovations in Communication Technology」
通訳 東元春夫(関西学院高等部教諭=1989年3月現在:現在は芦屋大学助教授)
- 1989年5月24日(特別例会) 発表者 沙蓮香教授(中国人民社会学研究所・一橋大学客

員教授)

「現代中国社会学の動向」

通訳 謝小彬氏(大学院社会学研究科博士課程後期課程在学学生)

- 1989年6月28日(特別例会) 発表者 メルヴィン・コーン教授(ジョンズ・ホプキンス大学)

「階級的地位と心の働き」

通訳 宮原浩二郎本学部助教授)

◇会員の新著

- 浅野仁教授(分担執筆)「Gerontological Social Work」 1988年 The Haworth Press. New York・London
- 田中国夫教授(分担執筆)「自治体職員と組織開発」 1989年2月 学陽書房
- 高田真治教授(分担執筆)「社会福祉士養成講座第10巻——社会福祉援助技術各論Ⅱ——」 1989年1月 中央法規出版
- 萬成博教授(共同執筆)「Organizational change in Japanese Factories」 1988年 JAI PRESS INC
- 鳥越皓之教授(編著)「環境問題の社会理論」 1989年3月 お茶の水書房
- 高坂健次教授(共著)「社会学研究法」 1989年4月 放送大学教育振興会
- 佐々木薫教授・真鍋一史教授(共同執筆)「社会心理学を学ぶ」 1989年7月 有斐閣
- 杉山貞夫教授(翻訳主幹及び翻訳担当)「ヒューマンファクター——新人間工学ハンドブック——」 1989年7月 同文書院

◇海外出張

- J. A. ジョイス教授 1989年3月1日から4月4日まで、「学生の語学研修引率」のため、アメリカへ。
- 鳥越皓之教授 1989年3月28日から4月2日まで、「社会学実習Ⅰ・Ⅱの調査実習指導」のため、韓国へ。
- 中野秀一郎教授 1989年3月28日から3月31日まで、「研究演習の海外研修引率」のため、韓国へ。
- 浅野仁教授 1989年6月17日から6月26日ま

- で、「国際老年学会のシンポジウムで発表」のため、メキシコへ。
- 田中国夫教授 1989年6月28日から7月8日まで、「Holland Festival Academyの招待による演奏旅行の責任者として同行」するため、オランダ各地へ。
 - 萬成博教授 1989年7月17日から7月26日まで、「現代中国工場における経営と労働の組織についての調査研究」のため、中華人民共和国へ。
 - 船本弘毅教授 1989年7月22日から8月2日まで、「SMU交流プログラムの協議及び夏季英語研修生引率」のため、アメリカへ。
 - 芝田正夫助教授 1989年9月8日から9月18日まで、「新大学図書館建設計画の推進に伴う海外図書館視察」のため、北アメリカへ。

- 中野秀一郎教授 1989年9月10日から11月10日まで、「国際交流基金の派遣による日本研究」のため、フィリピンへ。
- 森川甫教授 1989年10月5日から10月20日まで、「アジア・カルヴァン学会での研究発表及びフランス・ヴェルサイユで開催されるポールロワイヤル学会に参加」のため、韓国及びフランスへ。

◇社会学部人権問題研修会

- 1989年6月7日(水) 発題者 神戸東部教会・宇都宮佳果牧師
題目「賀川文書差別問題」

学会消息

◇日本新聞学会

1989年度日本新聞学会総会および春季発表集会は、5月27日(土)と28日(日)の両日、松本市の松商学園短期大学で開催された。個人研究発表、共同研究発表、ワークショップ、シンポジウムなどが行われた。シンポジウムのテーマは開催地の問題意識を反映した「地域メディアの多元的競合とその展望」であった。また特別講演として井出孫六氏が「信州の言論人」というテーマで興味深い話をされた。本学からは、芝田正夫助教授が出席し、個人研究発表の司会を担当した。

◇日本平和学会

日本平和学会1989年度春季研究大会が6月3日・4日、新潟大学(法学部)において開催された。本学からはJames A. Joyce教授と真鍋一史教授が出席し、真鍋教授は第1日、午前の「自由論題」の部で、「中国における対日本イメージと日本における対中国イメージ」と題する研究発表を行った。第1日午後には今回の大会のメインであるシンポジウム「東北アジア経済圏の協力構想」が開かれ、日本、中国、ソ連、朝鮮民主主義人民共和国、大韓民国からのパネリストによるプレゼンテーションとそれをめぐる活発な討論が展開された。

◇日本地域福祉学会

日本地域福祉学会第3回大会は1989年6月17・18日の両日、大阪市立労働会館で開催された。1日目は大会テーマである「地域福祉実践とその隣接領域」をめぐって課題研究発表がなされ、2日目は8つの部会に別れて自由研究発表が行われた。

本学からは次の2名が報告した。

高田真治教授「地域福祉の課題——パラダイム・共生・計画——」

横須賀俊司大学院学生「『障害者』から見た介助者照会センターの必要性」

◇関西社会学会

第40回関西社会学会大会が1989年5月27日・28日の両日、龍谷大学で開催された。本年のシンポジウムは「1970年以降の日本の社会変動」をテーマに、主として下部構造の変動と上部構造の変動という二部建てで行われ、「主として下部構造の変動」に関するシンポジウムでは遠藤惣一教授が司会を務め、中野秀一郎教授は討論者として参加した。

また、第2日目の午前に行われた「日本人論」の部会で真鍋一史教授が「日本人論の機能—日本人論に対する関与と態度の關係の分析—」と題する研究発表をした。この発表は米国スタンフォード大学人類学部のハルミ・ベフ教授との共同研究にもとづくものであり、関西学院大学から「国際共同研究交通費補助」が与えられた。

なお、来年度第41回関西社会学会は関西学院大学で開催されることが、総会において決定した。

◇情報通信学会

第6回情報通信学会大会が1989年5月18日・19日、青山学院大学(総合研究所ビルディング)において開催された。本学からは真鍋一史教授が出席し、「国際イメージと国際情報」と題する研究発表を行った。

◇異文化間教育学会

異文化間教育学会第10回大会が1989年5月13日・14日、京都外国語大学において開催された。本学からは真鍋一史教授が出席し、「中国と日本——その相互イメージの構造をさぐる——」と題する研究発表を行った。

執筆者紹介 (掲載順)

メルヴィン・コーン	ジョンズ・ホプキンス大学教授	小 関 藤 一 郎	名 誉 会 員
倉 田 和 四 生	関西学院大学教授	山 路 勝 彦	関西学院大学教授
森 木 和 美	大学院社会学研究科 博士課程前期課程	渡 辺 顕 一 郎	大学院社会学研究科 博士課程後期課程
武 田 丈	大学院社会学研究科 博士課程前期課程	立 木 茂 雄	関西学院大学専任講師
真 鍋 一 史	関西学院大学教授	Harumi B e f u	スタンフォード大学教授
遠 藤 惣 一	関西学院大学教授	牧 正 英	関西学院大学教授
西 山 美 瑳 子	関西学院大学教授	吹 野 卓	大学院社会学研究科 研 究 員
安 和 守 茂	大学院社会学研究科 博士課程後期課程	横 須 賀 俊 司	大学院社会学研究科 博士課程前期課程

社会学部研究会会員

会 長	遠 藤 惣 一			
評 議 員	高 田 真 治	牧 正 英	中 野 秀 一 郎	
	村 川 満	対 馬 路 人	正 村 俊 之	
会 計 監 査	佐々木 薫	宮 田 満 雄		
書 記	岡 部 衛 一 郎			
名 誉 会 員	青 山 秀 夫	藤 原 恵	本 出 祐 之	
	小 関 藤 一 郎	西 尾 朗	岡 村 重 夫	
	嶋 田 津 矢 子	定 平 元 四 良	杉 原 方	
	清 木 盛 光	栃 原 知 雄		
	(A B C 順)			
普 通 会 員	田 中 國 夫	萬 成 博	領 家 穰	
	倉 田 和 四 生	杉 山 貞 夫	半 田 一 吉	
	武 田 建	森 川 甫	張 光 夫	
	中 山 慶 一 郎	J.A. ジ ョ イ ス	船 本 弘 毅	
	津 金 沢 聡 広	春 名 純 人	紺 田 千 登 史	
	西 山 美 瑳 子	安 田 三 郎	真 鍋 一 史	
	山 路 勝 彦	山 本 剛 郎	鳥 越 皓 之	
	荒 川 義 子	安 藤 文 四 郎	浅 野 仁	
	高 坂 健 次	芝 田 正 夫	芝 野 松 次 郎	
	中 西 良 夫	宮 原 浩 二 郎	立 木 茂 雄	

関西学院大学社会学部研究会会則

第 1 章 総 則

第 1 条

本会は関西学院大学社会学部研究会と称する。

第 2 条

本会は本学部における社会学と関連諸科学の教育・研究の推進を計ることを目的とする。

第 3 条

本会は事務局を西宮市上ヶ原一番町 1—155 関西学院大学社会学部内におく。

第 2 章 事 業

第 4 条

本会は第 2 条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会などの開催
2. 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」などの刊行
3. 会員相互の研究・教育に関する連絡および協力
4. 本学部の教育・研究に対する協力
5. 国内外関係諸学会との協力
6. その他本会の目的を達成するために必要な事業

第 3 章 会 員

第 5 条

本会の会員は次のとおりとする。

1. 名誉会員 本会に功勞のあったもので、本会の推薦するもの
2. 普通会員 本学社会学部専任の教授、助教授、講師および助手
3. 賛助会員 本会の趣旨に賛同するもの

第 4 章 運営組織

第 6 条

第 2 章記載の事業を行うため、本会には以下の委員、委員会等をおく。

1. 会長は当該年度の社会学部長とし、本会には以下の委員、委員会等をおく。
2. 運営委員（6名）：運営委員は普通会員の中から互選し、運営委員会を構成する。
3. 運営委員長（1名）と会計（1名）：運営委員長と会計は運営委員の中から互選する。
4. 運営委員会は第 4 条に記された事業の企画・運営にあたる。

なお、機関誌「社会学部紀要」の編集については運営委員会内に複数の委員をもって構成される編集委員会を置く。編集委員長は、運営委員長が兼ねることがある。

5. 会計監査（2名）：会計監査は普通会員の中から互選する。
6. 書記は社会学部事務長に委嘱する。

第 7 条

本研究会委員の任期は2年とする。重任を妨げない。

第5章 総 会

第 8 条

総会は定期総会と臨時総会とし、会長が主宰する。定期総会は毎年一回開催され、臨時総会は会長が必要と認めたとき、あるいは普通会員の1/2以上の要求があった場合に開催される。議決は出席者の過半数をもって行う。

第 9 条

総会の承認を必要とするものは第6条第1項のほか、次の事項とする。

1. 事業計画および収支予算
2. 事業報告および収支決算
3. その他運営委員会において必要と認めた事項

第6章 会 計

第 10 条

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第 11 条

本会の経費は次の収入をもってあてる。

1. 会 費
普通会員年額 19,200円
賛助会員年額 10,000円
2. 寄付および補助助成による金品
3. その他の収入

第 12 条

本会員および本学社会学部大学院学生・学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の購読費は年間1,600円とする。

付 則

第 1 条

本会の事業運営に必要な諸規定は、運営委員会の議を経て別に定めることができる。

第 2 条

本会の会則変更および本会の解散、ならびに、これに伴う財産の処分等については、総会において、出席者の2/3以上の同意を得ることを要する。

第 3 条

本会則は1989年4月1日より施行する。

「社会学部紀要」編集内規

1989年4月1日施行

1. 「社会学部紀要」（以下、本紀要という）は原則として、当該年度中に2回発行する。6月末を締切日とする号は10月上旬の配布を11月末日を締切日とする号は3月25日の配布を目標とする。
2. 本紀要の企画、編集、発行は社会学部研究会「社会学部紀要」編集委員会がおこなう。
3. 本紀要に掲載される原稿の種類は以下に掲げるものとする。
 - ①原著
 - ②研究ノート
 - ③学部および社会学部研究会主催、共催の講演会の講演原稿
 - ④書評、内外の学術研究、学術集会の動向の紹介
 - ⑤その他編集委員会が必要と認めた記事
4. 本紀要への投稿有資格者は社会学部研究会名誉会員、ならびに普通会员とする。なお、共同執筆者は名誉会員あるいは普通会员の推薦を受けた者、名誉会員あるいは普通会员と共同研究をおこなった者とする。

大学院学生ならびに研究員単独の論文原稿の掲載に関しては、普通会员による推薦と編集委員会の審査を経て決定する。
5. 原稿の執筆に際しては、以下の様式に従うものとする。
 - ①原著については、原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙100枚以内、研究ノートについては原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙60枚以内とする。ワードプロセッサによる原稿については字数においてそれらに相当する分量とする。
 - ②手書き原稿に用いる原稿用紙は研究会指定の200字詰め横書き原稿用紙とする。
 - ③図表、写真等は題字、説明つきですべて本文とは別紙とし、本文中に挿入する個所を本文欄外に指示すること。

図凸版（トレース、写植代）は10,000円を限度として社会学部研究会が負担するが、それを超える分は執筆者の負担とする。
 - ④原稿には和文および英文の表題をつける。また執筆者名、所属機関名についても同様とする。
6. 本紀要に発表する原著論文、研究ノートは他に未発表のもの、または学会大会等での口頭発表の主題をその学会等の了解のもとに原稿にまとめたものに限られる。
7. 外国語による原稿については編集委員会において審議の上、許可することがある。分量は日本語原稿の場合に準ずるものとする。
8. 編集委員会が依頼した外国語原稿を翻訳して掲載する場合には、その翻訳者に対し翻訳料を支払うものとする。その金額については社会学部研究会運営委員会で審議の上決定する。
9. 本紀要に掲載された論文等は無断で他の雑誌等に転載することを禁ずる。

また、執筆者がすでに外国語または日本語で発表した論文等を日本語または外国語に翻訳して掲載を希望する場合には、編集委員会において審議のうえ、それを許可することがある。ただし、この場合、著作権処理に関する責任は全て執筆者が負うものとする。その場合の翻訳料は支払わない。
10. 本紀要の執筆者に対しては本誌1部と抜刷30部を無料で配布する。ただし、それ以上の抜刷を希望する場合、その実費は本人の負担とする。
11. 発行された本紀要は名誉会員、普通会员及び学生に配布する。
12. この編集内規は研究会運営委員会の議を経て変更することがある。ただし、その変更はその年度の社会学部研究会総会で報告されなければならない。

<編集後記>

関西学院創立100周年の記念すべき年、また社会学部創設30周年を来年に迎える年、『社会学部紀要』第60号をお届けできることは喜びです。

学部の学術講演会で講演いただきました、アメリカ社会学会会長でもあられたメルヴィン・コーン博士の「仕事とパーソナリティとの関係における未解決の問題について」を掲載いたしました。許可して下さった先生に感謝するとともに、通訳・翻訳いただいた斎藤友里子さん、宮原助教授にお礼申し上げます。

名誉教授の小関先生にも玉稿をいただきました。衰えぬ研究意欲、私ども若輩の鑑です。尚いっそうのご健康とご活躍をお祈りいたします。

今回の特色は大学院学生諸君の原稿が多いことです。社会学・社会福祉学ともに投稿いただきました。大学院活性化のために今後とも専心され、よき役割を果たされるよう期待しております。

編集はまことに煩雑な仕事です。篠崎陽一事務主任をはじめ事務室の皆さんに労をとっていただきました。感謝いたします。 (高田)

1989年9月20日 印刷

1989年10月1日 発行

編集発行人 遠藤 惣一

発行所 関西学院大学社会学部研究会
〒662 西宮市上ヶ原一番町
関西学院大学社会学部内
電話(0798)53-6111(代表)
(内線) 4212

印刷所 尼崎印刷株式会社
〒660 尼崎市北大物町16-55
電話 (06)481-0707(代)

KWANSEI GAKUIN

SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

No. 60

October 1989

The Study Association of Sociology Department

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

Nishinomiya, Japan
